

第44回包装基礎コース

包装の全分野における体系的短期間入門及び実践講座

開催日:平成23年5月11日(水)・12日(木)・13日(金)
19日(木)・20日(金) 全5日間

受講対象:入社3年目～新たに包装分野に携われる方
主催:  社団法人 日本包装技術協会 関東支部

ご受講のご案内

包装基礎コースは、当協会における教育活動の一環として位置付けられ、各社の社員教育、また管理職の方々の体系付け等に利用されております。更に包装管理士講座の前段としての意味から、組み合わせて受講される方も多くなっております。43年にわたり継続しております事は、当コースが会員会社はもとより、関係各位から教育の一環として認められ、利用されてきた事に他なりません。従来同様、包装の基礎知識から昨今の諸問題に至るまで全般を体系化したプログラムを編成しておりますので、この機会に多くの方々が興味を持ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

開催要領

日時 平成23年5月11日(水)・12日(木)・13日(金)・19日(木)・20日(金) 全5日間

会場 (社)日本包装技術協会 A会議室(案内図参照)
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階

定員 70名(先着順受付、定員になり次第締め切ります)

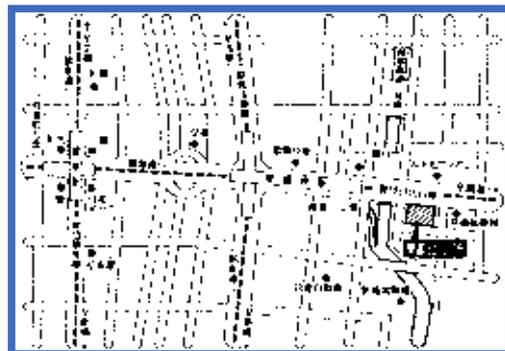
受講料 JPI会員:59,850円(消費税・テキスト代含む)
一般:73,500円(消費税・テキスト代含む)

受講対象

本コースは包装や物流に関する専門知識の普及を目的として開講します

- 基礎知識をさらに深め、体系づけたい方
- 包装設計を担当される方
- 商品企画・開発に携わっている方
- 近年中に『包装管理士講座』を受講される方

会場案内図



地下鉄日比谷線・東銀座駅下車 6番出口より徒歩1分
都営地下鉄浅草線・東銀座駅下車 6番出口より徒歩2分

お申込み方法

- 1 本紙申込書に必要事項を全て記入の上、FAX(03-3543-8970)にてお申込み下さい。
協会ホームページからのお申し込みも出来ます。
協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- 2 申し込まれた方には後日受講証と受講料請求書をお送りします。
受講料請求書記載銀行へ開催前日までに銀行振込にてお支払い下さい。
- 3 テキスト(資料)は会場でお渡しします。
受講者以外にはテキストをお分けすることは出来ません。
- 4 開催一週間前からの受講料の払い戻しは致しません。申し込まれた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。

お問合せ並びにお申込み先

社団法人 日本包装技術協会 関東支部
包装基礎コース係 担当:竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL. 03-3543-1189/FAX. 03-3543-8970
e-mail:takeuchi@jpi.or.jp
協会ホームページ:<http://www.jpi.or.jp>

*受講申込者には必ず受講証・受講料請求書をお送りします。お申し込み後、1週間以上たってもお手元に届かない場合には、当会までお問合せ下さい。

個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報は「第44回包装基礎コース」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 受講申込みにより、ご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示、提供することはありません。

包装基礎コースの特徴

- ① わが国唯一の包装人材養成のための体系的短期間入門コース
- ② わが国包装、流通界の権威者・専門コンサルタントによる充実した講師陣
- ③ 総合的、体系的、有機的に関連付けられたカリキュラム
- ④ ケーススタディによる体験学習の実施
- ⑤ 具体的な事例を取り上げた内容

* 包装管理業務に初めて従事される方にも総合的な包装の基礎を理解・把握して頂けます。



◆(社)日本包装技術協会 関東支部 各種研修活動のご案内◆

■人材育成コース

- ①包装新人研修コース(4月開講)
入社 1~2 年目の新人を対象に初歩の一般的な包装基礎知識の習得を目指します。
- ②包装基礎コース(5月開講)
入社 3 年目以降、または新たに包装分野に就かれる方を対象に、包装の全ての分野にわたり短期間習得を目指します。
- ③包装管理士講座(6月開講)
包装基礎コースの内容より一歩踏み込んだ広義の専門知識の習得を目指します。一般講義、グループ討議、ケーススタディ等合宿を通して交流親睦を図ります。
- ④包装アカデミー(6月開講)
専門分野の深度化と高度化を目指します。輸送包装・食品包装・包装材料・医薬品包装の 4 コースを開講予定。

■専門別人材育成コース

- ⑤フレキシブルパッケージコース(11月開講)
関連法令・包材の安全衛生・接着性等、柔軟材包装の知識について短期習得を目指します。
- ⑥食品包装コース(11月開講)
食品包装に必要な知識と最新情報を月 1 回の頻度で計 5 回講義を行います。

⑦緩衝包装设计コース(2月開講)

緩衝包装の目的、力学基礎、設計技法を実際の緩衝設計プロセスに沿いながら解説します。

⑧段ボール包装设计コース(2月開講)

主に初心者を対象に段ボールの特性を学び、実習時に段ボール箱を作成します。

■時事テーマ別講演会

⑨化粧品包装セミナー(7月開講)

化粧品包装のデザイン、新技術、包材、化粧品業界の動向についてプログラム編成します。

⑩パッケージイノベーションセミナー(12月開講)

新しい包装の価値を創出するような情報の紹介を中心に、デザイン・販売戦略・分析情報・環境対応事例・UD・消費者への PR 等様々な分野からのテーマでプログラム編成します。

⑪包装材料セミナー(1月開講)

新材材・開発事例・包装資材にまつわる問題や法律の説明、素材別マーケット動向についても紹介します。

⑫環境を考える包装革命シンポジウム(3月開講)

環境問題に対する課題の最新動向、ならびに低炭素社会/サステナビリティ社会における新しい包装のあり方について専門家の方から紹介いただきます。

⑬医薬品包装セミナー(3月開講)

医薬品包装の法規、新技術、包材、医薬品業界の動向についてプログラムを編成します。

FAX.03(3543)8970 (社)日本包装技術協会関東支部 担当:竹内

NO.

第44回包装基礎コース受講申込書

会社名			TEL				
			FAX				
所在地	(〒)						
受講者	氏名			所属役職			
	e-mail			包装経験年数	年	ケーススタディ希望選択	生活者輸送
	氏名			所属役職			
	e-mail			包装経験年数	年	ケーススタディ希望選択	生活者輸送
	氏名			所属役職			
	e-mail			包装経験年数	年	ケーススタディ希望選択	生活者輸送

* ケーススタディ選択希望はどちらかに○をつけて下さい。最終日グループ分けの参考にさせていただきます。(ご希望に添えない場合もありますがご了承下さい。)

第44回包装基礎コース

日程と主な内容

第1日目 5月11日(水)

10:00～11:50

『包装概論と包装技法』

1. 我が国の包装産業の規模
2. 包装の定義と分類
3. 最近の包装形態の種類と用途
 - ・フレキシブル包装（フィルム包装、袋、ピロー包装、シュリンク包装、ストレッチ包装 等）
 - ・成型包装（プリスター成型、真空成型、深絞り成型、カートン包装 等）
 - ・ボトル型（プラスチックボトル 等）
4. 食品保護のための包装技法
 - ・包装への要求機能
 - ・各種包装技法
5. 包装の諸問題・課題
 - ・保護性、環境対応、ユニバーサルデザイン
6. 最近の機能性包装
7. 包装と環境対応
 - ・3R (Reduce, Reuse, Recycle)
 - ・環境法令
 - ・再商品化技術

講師

大日本印刷(株) 包装事業部 環境室
シニアエキスパート
藤井 均 氏

13:00～14:40

『【包装材料1】板紙・紙器』

1. 紙器用板紙
 - (1) 紙とは
 - (2) 紙の分類
 - (3) 板紙とは
 - (4) 板紙の分類
 - (5) 寸法と坪量
 - (6) 紙の特性
2. 紙器
 - (1) 紙器とは
 - (2) 紙器の設計
 - (3) 紙器の形態
 - (4) 紙器の製造
 - (5) 紙器の機能付与

講師

㈱クラウン・パッケージジ
社長付 研究開発室（包装管理士）
八木野 徹 氏

14:50～16:30

『【包装材料2】プラスチックフィルム』

1. プラスチックフィルムについて
2. 主なフィルムの製造方法
3. フィルムの種類と特徴
 - 3.1 基材フィルム
 - 3.2 シーラントフィルム
4. 包装の基本的はたらき
5. 包装用フィルムの加工
 - 5.1 印刷
 - 5.2 ラミネーション
 - 5.3 製袋および充填
6. フィルムを使用した主な包装形態
 - 6.1 用途と要求性能
 - 6.2 構成事例
7. 規格及び法規

講師

ユニチカ(株) 中央研究所
フィルムグループ
三宅 宗博 氏

* 16:30～16:50 ケーススタディ課題の配布・説明 JPI 事務局

第2日目 5月12日(木)

10:00～11:50

『【包装材料3】ガラスびんと金属缶及びプラスチック容器』

1. はじめに
 - (1) 容器の歴史
 - (2) 容器に求められる機能・役割
2. ガラスびん
 - (1) ガラスとは
 - (2) 利点と欠点
 - (3) 用途及び出荷状況
 - (4) 製造方法
 - (5) 近年の動向
3. 金属缶
 - (1) 用いられる材料
 - (2) 利点と欠点
 - (3) 用途及び出荷状況
 - (4) 種類と製法
 - (5) 近年の動向
4. プラスチック容器
 - (1) プラスチックとは
 - (2) 利点と欠点
 - (3) 用途及び出荷状況
 - (4) プラスチックの種類と特徴
 - (5) 成形法
 - (6) プラスチック容器の課題と動向

講師

キリンビール(株)
パッケージング技術開発センター
主査 天野 勉 氏

13:00～14:50

『防湿技法・ガス遮断包装技法』

1. 防湿包装
 - 1.1 包装材料の防湿性
 - (1) 包装材料の透湿度
 - (2) 透湿度の温度及び湿度依存性
 - 1.2 包装内容品と水蒸気との関係
 - (1) 乾燥食品の吸湿特性と包装内湿度
 - (2) 包装外部の湿度
 - 1.3 防湿包装設計
 - (1) 吸湿性製品の防湿包装
 - (2) 高水分の製品の防湿包装
 - (3) 乾燥剤を使用する防湿包装
2. ガス遮断包装
 - 2.1 包装材料のガス遮断性
 - (1) 包装材料のガス透湿度
 - 2.2 ガス遮断包装技法
 - (1) 真空包装技術
 - (2) ガス充填包装技術
 - (3) 脱酸素剤封入包装技術
 - 2.3 ガス遮断包装設計

講師

藤森工業(株) 研究所
開発担当課長
荒木田 真 氏

15:00～16:50

『生活者包装設計「食品包装設計の基本」』

1. 食品包装設計の基本的な考え方
2. 食品包装設計の進め方
 - ・新製品開発における包装開発の流れ
 - ・包装設計の手順
3. 品質保持包装の考え方と事例紹介
4. 環境対応包装の考え方と事例紹介
5. ユニバーサルデザイン包装の考え方と事例紹介
6. 包装設計と品質保証の考え方

講師

キユーピー(株) 研究所
商品開発センター
野田 治郎 氏

第3日目 5月13日(金)

10:00～11:50

『パッケージデザイン概論』

1. パッケージデザインの役割と機能
2. 商品コンセプトとデザイン
3. デザインの構成要素(構造、グラフィック)
4. パッケージデザイン制作の実際
5. デザイン評価と品質の向上

講師 凸版印刷(株)
トッパンアイデアセンター
商品企画部 課長
チームリーダー 山川 昌 氏

13:00～14:50

『食品容器と包装システム』

1. 包装機械の種類と生産金額
2. 加工食品産業の市場規模
3. 加工食品の歴史
4. 食品の製造基準
5. 食品容器と包装システム
6. 主な包装機械について
7. まとめ

講師 東洋製罐(株) 生産本部
カスタマーエンジニアリング部長
長谷 宣昭 氏

15:00～16:50

『【包装材料4】段ボール』

1. 紙の生産量(世界・日本)
2. 包装材料の中の段ボールの比率
3. 段ボールの種類
4. 段ボールが箱になるまで1(貼合)
5. 段ボールが箱になるまで2(印刷)
6. 段ボールが箱になるまで3(抜き・接合)
7. 段ボールの特徴(メリット)
8. 段ボールの基礎物性と強度
9. 包装試験の種類と方法
10. 段ボール箱の構造
11. 段ボール箱の設計

講師 王子子ヨダコンテナ(株)
営業本部 CS推進部
主幹 包装専士
廣部 健一郎 氏

第4日目 5月19日(木)

10:00～11:50

『トイレットリー製品のUD・環境対応』 ～花王での取組事例を中心に～

1. ユニバーサルデザインと容器・包装
(1) 容器・包装の役割とUD
(2) 花王のUD・はじまり
(3) UDの概念・歴史
(4) 人口構造の変化・UDの必要性
(5) 社会の動き
(6) 容器・包装のBF/UD
(7) 事例紹介
2. 環境対応と容器・包装
(1) 容器・包装の役割と環境対応
(2) 容器包装リサイクル法
(3) 花王の環境対応の取組み(3R)
—Reduce
—Reuse
—Recycle
(4) 今後の課題

講師 花王(株)
包装容器開発研究所 所長
畑 雅治 氏

13:00～14:50

『輸送包装设计』

1. 輸送包装と物流の関係
・包装から見た物流について
2. 輸送包装の力学
・落下衝撃・輸送振動力学の基礎
3. 輸送包装设计条件
・物流環境、製品強度把握と包装材の選択、
設計、試験
4. 輸送包装の種類
・輸出、防錆、集合包装
5. 緩衝材
・緩衝材の分類と種類
6. 緩衝設計
・緩衝材の特性曲線図を用いた計算、設計方法
7. 容器設計
・段ボール強度の計算、設計方法
8. 輸送包装设计の総合演習
・演習課題より緩衝、段ボール設計を行う

講師 日立電子サービス(株)
技術開発本部
マルチベンダ・アライアンス部 第1グループ
包装専士 高橋 二郎 氏

15:00～16:50

『輸送包装の実際』

1. 包装貨物の物流
2. 輸送・荷役・保管手段
3. 輸送環境
4. 包装貨物試験法
5. 輸送包装の役割
6. 輸送包装に関わる法規制
7. 輸送包装例

講師 三菱電機(株) 設計システム技術センター
ハードウェアエンジニアリング部
設計業務改善推進 G
包装専士 津村 日出男 氏

第5日目 5月20日(金)

10:00～17:00

ケーススタディー-包装设计の考え方と手法-

演習課題をグループ討議することにより、個々の発想の相違を認識したり、包装设计のプロセスを体験することにより、包装设计を総合的に理解して頂くことを目的として実施します。予め提示された課題についてグループ別学習により、適正包装を模索してまいります。グループ討議では、異業種のメンバーの中で、各自の意見を発表し、また他人の意見を聞くことによって、普段の業務では得ることが出来ない経験や知識を吸収していただきます。

スケジュール

1. グループに分かれ課題を討議、発表資料の作成 2. 討議結果の発表・質疑応答 3. 講師による講評

*グループ討議は生活者包装・輸送包装とそれぞれのグループに分かれて行います。

【生活者包装課題選択グループ】商品の個装・内装を中心とした包装の考え方と手法について討議します。

【輸送包装課題選択グループ】段ボールを主体とした輸送包装设计の考え方と手法について討議します。

*課題は第1日目に配布します。第5日目までにレポートにまとめ提出いただきます。

(当日のグループ討議に向けての予習を目的としております。万が一まとめることが出来ない場合でも、ケーススタディーへの参加は支障ありません。)

講師 【生活者包装担当】

雪印メグミルク(株)
ミルクサイエンス研究所
研究戦略グループ 主席
包装管理士 松野 一郎 氏

講師 【輸送包装担当】

(株)トーモク 開発営業部
包装専士 土谷 恒 氏